

下諏訪 中山道を守る会

20周年の活動報告

きょうあす まちづくり協働サポートセンター



発足20周年を迎えた「中山道を守る会」の皆さん。活動報告会を7、8日に開く

江戸時代に江戸と京都を結ぶ街道「中山道」が通り、中山道で唯一、温泉が湧く宿場としてにぎわった下諏訪宿（下諏訪町）。中山道の歴史を後世に伝えたいと、街道整備や中山道を歩く企画などを行ってきた「中山道を守る会」が今年、創立20周年の節目を迎えた。活動拠点である下諏訪まちづくり協働サポートセンター（下諏訪商工会議所の向かい）に、これまでの取り組みをまとめた写真や資料などを掲示。活動報告会として7日正午～午後4時と、8日前10時～午後4時に一般公開する。入場無料。

2004年、和田峠から諏訪大社下社秋宮までを歩く記念ウォークが開かれた。このとき、現会長の西村増夫さん（87）＝同町星が丘＝も参加。峠近くにあった茶屋「西餅屋」付近の古道が荒れて歩けな

写真や資料を展示

いことを知り、自分たちで改修しようとする05年、仲間と同会を立ち上げた。峠の道の改修を進め、年1回の和田峠へのハイキング、県内の中山道を訪ねる研修ツアー、勉強会などを重ねてきた。

多いときは40人以上の会員が所属したが、近年は会員の高齢化が進み、現在は活動を縮小。今後は毎年の研修・視察は行わないが、バス旅行などを行っていききたい考え。節目の20年を迎え、これまでの活動を振り返り、地域住民にも活動のまとめを見てもらう機会とする。写真データは6000枚あり、見たい画像をパソコンで検索して見ることができる。資料のファイルや新聞記事なども展示した。

近年は、中山道を歩く観光客や外国人が増えてきて、町観光振興局でもツアーを企画するなど、中山道への関心の高まりを喜ぶ西村さん。「20年前は誰も歩いていなかった。中山道を歩いてもらい、下諏訪の旅館に泊まる人を増やすことがやりがいだ」と語った。「何とか20年続けてくることができた。総まとめを皆さんに見てほしい」と話している。

（樋口美世子）